

学校と特別支援学校の交流及び共同学習に対する調査研究 —静岡県内のホームページにおける調査から—

Research on the Exchange and Collaborative Learning Between School at Special Support School

—From an Investigation in a Website of Special Support School in Shizuoka—

鈴木温子

Haruko SUZUKI

常葉大学教育学部初等教育課程国語専攻
Faculty of Education, Tokoha University

近年インクルーシブ教育の構築に向けて、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ時間である「交流及び共同学習」の推進が進められている。本研究では、静岡県内の特別支援学校のホームページから「交流及び共同学習」に関する活動の調査を行い静岡県の「交流及び共同学習」の現状を調査した。その結果、「交流及び共同学習」の活動の回数には特別支援学校と交流相手の学校との距離が近い場合は記録数が多いが距離が遠い場合は少ないこと、活動の回数には障害の種類や学部が関係することを明らかにした。

〈キーワード〉 特別支援学校 交流及び共同学習 ホームページ 静岡県 学校

1. 研究の背景と目的

インクルーシブ教育システム構築に向けて、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ時間である「交流及び共同学習」の推進が求められている。「交流及び共同学習」は、学習指導要領においてその内容が位置付けられている。また、障害のある子供と障害のない子供たちが共に「交流及び共同学習」を行うことで、お互いに社会性を身につけたり、障害のある子供の経験を広めたり、障害のない子供が障害について理解を深めたりと双方にとって意義のある活動だと言える。そして現在、「交流及び共同学習」について多くの研究者が研究を進めている。

しかし、全国での調査はあるものの、静岡県という限定された地域での研究はない。

そこで本研究では、地域を静岡県に絞り、静岡県の「交流及び共同学習」の活動頻度、活動内容等を各特別支援学校のホームページから調査し、考察をしていくことを目的としている。

2. 研究の方法

2.1. 調査対象

静岡県の県立、国立、私立の特別支援学校 40 校を対象に行う。また、幼稚部、小学部、中学部、高等部すべての学部を対象にし、障害も知的、視覚、聴覚、肢体、病弱のすべての障害を対象に行う。

2.2. 調査項目

調査項目は表 1 に示した。「11. 活動の分類」には、分類の項目も示している。

1. 「学校名」
2. 特別支援学校のホームページの「URL」
3. 調査対象の特別支援学校の「学部」
4. 「障害種」
5. ホームページの「最も古い更新日」
6. 交流を行った「日付」
7. 「交流を行った学部」
8. 「交流を行った障害」
9. 「交流相手」の学校名
10. 交流及び共同学習の「活動内容」
11. 「活動の分類」 ・「授業交流」 ・「居住地交流」 ・「行事交流」 ・「部活動交流」 ・「交流会」 ・「その他」
12. 交流を行った「場所」
13. ホームページの「閲覧日」

表 1 調査項目

2.3. 調査方法

本研究では、静岡県各特別支援学校のホームページを使用し、調査項目を基にホームページ上で参照することができる範囲の年まで調査を行う。

2.4. 調査の実施期間

調査は、2017年9月21日から2017年11月1日までを調査の実施期間とした。

3. 結果と考察

まず、調査を行った特別支援学校の記録数を確認していく。記録数の合計は150件であり、記録数の平均は3.75件であった。記録数が最も多い特別支援学校は28件の静岡県立藤枝特別支援学校の焼津分校であった。焼津分校のように記録が多い学校は極端に多い。しかしその反面記録数が0件という学校が40校のうち11校と4分の1を占めており、記録数の二極化が見て取れる。

3.1. 記録数と物理的距離の関係

まず、記録数と物理的距離の関係について述べていく。記録数が10件以上の特別支援学校から交流相手校までの距離の平均は、967mであった。それに対し、記録数が0件の特別支援学校からの近隣の学校との距離の平均は、583.174mであった。しかし、記録数10件以上の特別支援学校の距離の平均を0件の特別支援学

校と同じ1km以内のみで計算した場合、平均は432.4mであった。このことから、交流相手校と特別支援学校との物理的距離が「交流及び共同学習」に関する記録数に関係することが示唆される。

また、各学校の記録数の平均は6.83件であったのに対し、すべての学校の記録数の平均は3.75件であった。そして図1からも、特別支援学校と交流相手校の物理的距離が0mの学校の記録数が43件と最も高い。小学校、高等学校内に設置した特別支援学校の方が全体の記録数よりも平均が高く、記録数も多いことから、交流相手校と特別支援学校との物理的距離が「交流及び共同学習」に関する記録数に関係することが分かる。

これら二つの結果から、交流相手校と、特別支援学校との距離が近いと「交流及び共同学習」に関する記録が多いが、距離が遠いと記録が少ないことが示唆される。

また、阿部(2013)は、組織メンバー間の物理的距離がコミュニケーション・パターンにどのような影響を及ぼしているのかということに注目して研究を行った『オフィス空間のデザインと組織内コミュニケーション—メンバー間の距離の影響に関する考察—』の中で、「人員間距離が隔たるほど、対面コミュニケーションの回数は急激に低下する」と述べている。阿部はオフィス内でのコミュニケーションについて述べているが、特別支援学校の教員と交流相手の学校

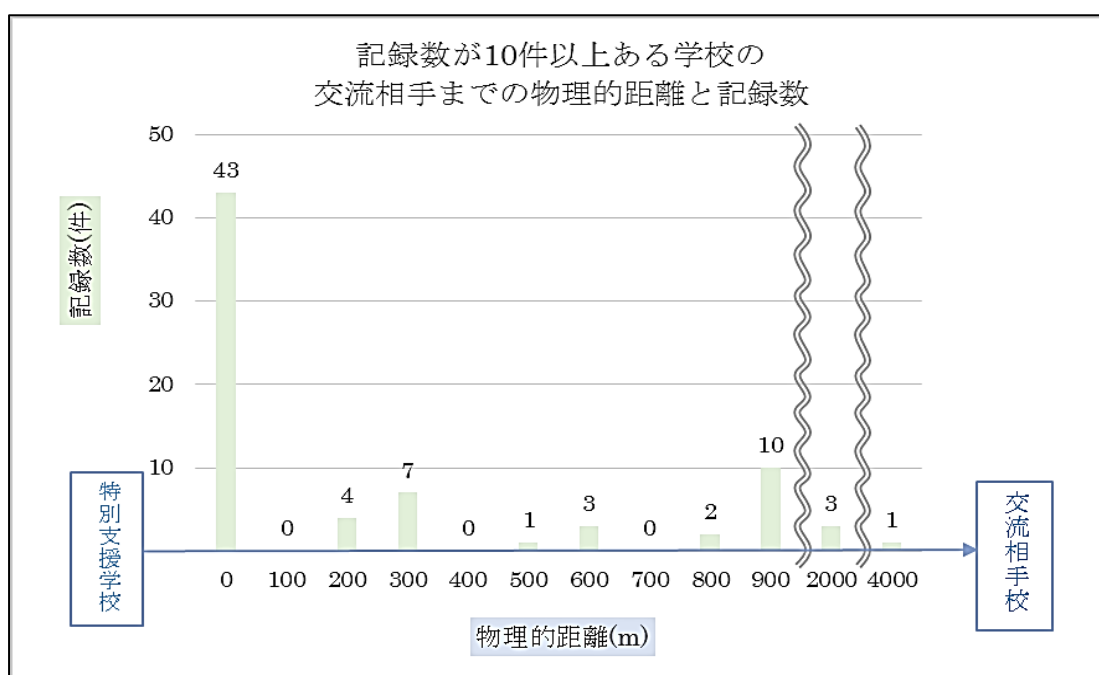


図1 記録数が10件以上ある特別支援学校の交流相手の学校までの物理的距離

の教員との打ち合わせの末行われる「交流及び共同学習」においても援用できるだろう。

3.2. 障害の種類と記録数の関係

次に、「交流及び共同学習」に関する記録の数と、障害の種類との関係について述べていく。表2は、障害の種類ごとの校数と記録数を表にまとめたものである。また、図2はこの表を基に障害ごとの記録数の割合を表したものである。図2の割合から、最も割合が高いのは32%の聴覚障害、次に26%の知的障害である。それに対し、最も割合が低かったのは4%の視覚障害であり、次に低かったのは10%の肢体であった。

このことから、「交流及び共同学習」に関する記録の数と、障害の種類には関係があることが分かる。

表2 障害の種類ごとの記録数

障害種	校数	記録数
視覚	3	2
聴覚	3	15
知的	27	111
肢体	17	26
病弱	3	13
計	53	167

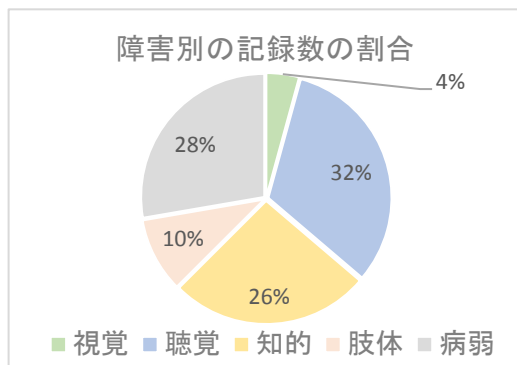


図2 障害の種類ごとの記録数の割合

3.3. 学部と記録数の関係

次に、学部と記録数の関係について述べていく。表3は、学部ごとの校数と、記録数を表にまとめたものである。なお、1つの記録の中に「小学部と中学部」など二つの学部が存在する場合は、「小学部」と「中学部」それぞれの記録数に1件ずつ追加して計算している。また、150件の記録のうち、3件が何学部の記録か不明だった。図3は、表3を基に学部ごとの記録数の割合を示したものである。学部の中で割合が最も高いのが高等部であり、次が小学部、そ

して中学部、幼稚部と続く。表3、小学校・高等学校の敷地内にある特別支援学校に、高等部が多いことから、高等部の最も割合が高いことが考えられるだろう。

このように記録数の割合が異なることから、「交流及び共同学習」に関する記録の数と学部に関係があることが示唆される。

表3 学部ごとの記録数

学部	校数	記録数
幼稚部	5	2
小学部	24	29
中学部	24	26
高等部	26	91
計	79	148

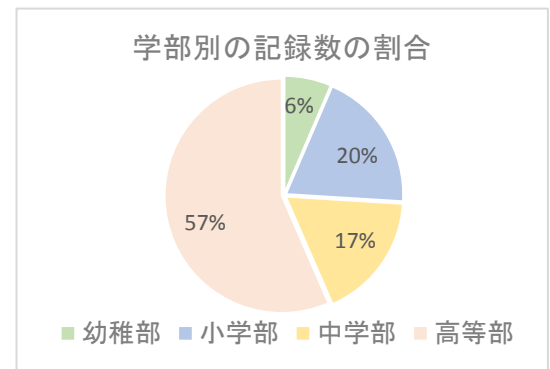


図3 学部ごとの記録数の割合

4. まとめと今後の課題

まず、3. 結果と考察で述べた研究成果をもとに提案をしていく。

4.1. 提案

[提案1]

既に静岡県で行われている小学校、高等学校の敷地内に特別支援学校の分校を設置する活動を推進していく。

調査の結果から、小学校、高等学校の敷地内にある特別支援学校の分校は、他の特別支援学校や分校に比べて記録数の平均が高かった。また、学部の中で最も記録数が多かった高等部は、小学校、高等学校の敷地内に設置された分校の中で最も多い学部であった。そのため、今後もこの取り組みを推進し、特別支援学校と幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校との距離を縮め、高等部だけでなく他の学部もより敷地内に設置していくことが「交流及び共同学習」の活動の推

進につながることを考えられる。

〔提案 2〕

直接的な交流を行うことができない場合、間接的な交流にて「交流及び共同学習」を行う。

調査を行い、近隣に交流相手となる幼稚園、小学校、中学校、高等学校が存在しない特別支援学校があることが分かった。そのような特別支援学校は、児童、生徒同士が直接交流することは距離的に難しい。そのような場合、手紙やテレビ電話を用いた間接的交流にて交流を行うことで相手校の児童、生徒が障害に対する理解を深めることができると考えられる。

〔提案 3〕

特別支援学校同士、学校内での情報共有。

支援方法に関する情報や児童、生徒把握に関する情報の共有はもちろんだが、「交流及び共同学習」に関する情報の共有も積極的に行うことで「交流及び共同学習」に関する活動の増加が考えられる。他校はどのような交流を行っているのか、交流を行う際の移動はどのようにしているのかなど、情報共有を行うことで「交流及び共同学習」に関する活動に対して抵抗なく行うことができるのではないかと考えた。

〔提案 4〕

教師一人一人が「交流及び共同学習」を行う意味、意義を理解する。

特別支援学校の教師に限らず、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校と、すべての教員が「交流及び共同学習」に対して研修などの機会理解を深めることで、交流に対しての姿勢、意欲を高めることにつながるのではないかと考える。そして、姿勢、意欲を高めることが「交流及び共同学習」の推進につながるのではないかと考える。

4.2. 今後の課題

今回調査を行ったのは、各学校のホームページを使用しての調査であったため、「ホームページの更新を担当する教師が情報の公開に積極的であるかどうか」という観点が入ってしまっていた。そのため、現場の実態はどうであるのかは、分からないままである。今後は実際に特別支援学校に勤めている教員にアンケートなどを用いて調査を行っていききたい。また、「交流及び共同学習」を行うにあたって、どのような難しさがあるのかなども調査していききたい。

【参考文献】

- 阿部智和 (2013) 『オフィス空間のデザインと組織内コミュニケーション：メンバー間の距離の影響に関する考察』
https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/51732/1/ES_62%282%29_075.pdf [参照日：2017.12.17]
- 赤間樹、佐藤慎二 (2016) 『A 県特別支援学校高等部と高等学校の 学校間の交流及び共同学習に関する調査研究』
<https://ci.nii.ac.jp/lognavi?name=nels&lang=ja&type=pdf&id=ART0010586096&naid=11001002391> [参照日：2017.09.01]
- 文部科学省 (2009a) 『高等学校学習指導要領』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf [参照日：2017.08.25]
- 文部科学省 (2009b) 『小学校学習指導要領』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/11/29/syo.pdf [参照日：2017.08.25]
- 文部科学省 (2009c) 『中学校学習指導要領』
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/newcs/you/ryou/chu/_icsFiles/afieldfile/2010/12/16/121504.pdf [参照日：2017.08.25]
- 文部科学省 (2009d) 『特別支援学校学習指導要領』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2009/09/09/1284518_1.pdf [参照日：2017.08.25]
- 文部科学省 (2009e) 『幼稚園教育要領』
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/newcs/you/ryou/you/ryuui.htm [参照日：2017.08.25]
- 文部科学省 (2017a) 『小学校学習指導要領』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf [参照日：2017.08.26]
- 文部科学省 (2017b) 『中学校学習指導要領』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf [参照日：2017.08.26]
- 文部科学省 (2017c) 『特別支援学校幼稚部教育要領』
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/_icsFiles/afieldfile/2017/06/01/1386427_1.pdf [参照日：2017.08.27]
- 文部科学省 (2017d) 『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/_icsFiles/afieldfile/2017/06/02/1386427_2.pdf [参照日：2017.08.27]
- 文部科学省 (2017e) 『幼稚園教育要領』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_3_2.pdf [参照日：2017.08.26]
- 全国特別支援学校長会 (2016) 『平成 28 年度全国特別支援学校長会研究集録—教育課程（交流及び共同学習、キャリア教育、防災教育、道徳教育等）』
http://www.zentoku.jp/houkoku/pdf/h28_kyoiku_1.pdf [参照日：2017.09.01]

(指導：佐藤和紀)